



日本のご支援者の皆さまへ

日本のご支援者の皆さまにおかれましては、お元気にお過ごしのことと存じます。この度は、大変なご無沙汰になってしまいましたことを深くお詫び申し上げます。

タイの政情不安から数ヶ月が経過いたしました。プラティープ財団は以前と変わらず、スラム地域の人々のため、様々な活動を続けております。諸般の事情のため、現在、私は理事長職を離れておりますが、これからも「プラティープ財団」の一員として活動を支えていく所存でおります。

5月の流血事件後も、ご支援者の皆さまから、これまで同様変わらぬご厚情を賜り、当財団の活動を支援いただいておりますことは、何よりも感銘の至りでございます。スラム地域の青少年に対する教育推進活動は、次世代を担う子どもを育てていくことでもあります。恵まれない子どもたちに教育の機会を与えてくださっているご支援者の皆さまのご厚意に対しまして、改めて心より厚く御礼申し上げます。

合掌

ドゥアン・プラティープ財団創設者

プラティープ・ウンソンタム秦

インド洋津波孤児 8 人 イギリスで文化交流活動



津波孤児センター「バーンターンナムチャイ」のロジヤナ代表と子どもたちの代表 8 人がイギリスの支援者グループ（Mr. Robert G. Wolff, Thai Children Trust, Lands of Smile ほか多数のご支援者）に招かれ、5月5日から26日まで文化交流活動を行ってきました。

イギリスの支援者グループの方々は、2004年に起きたインド洋大津波での被災者救援以来、津波孤児センターで暮らす子どもの日常生活や健康面などのケアにご協力いただいています。

今回の訪問では8人の子どもたちが日頃練習してきたタイ舞踊や伝統文化を各地で紹介しました。一行は、イギリスの主要都市やスコットランドなどを訪問し、歴史を学ぶこともできました。また、生まれて初めて見る「雪」に大変興奮していました。帰国直前には Witton Castle 市の小学校や教会でも文化交流活動を行いました。

数々の貴重な体験をした子どもたちは、支援者グループの方々から多くの激励を受けて帰国しました。本当にありがとうございました。

ベルギーの支援団体代表 今年2度目の訪タイ

Sophie Bournonville さんは、プラティープ財団の活動を支援するために昨年、ベルギーで支援団体『Take the Road to Education』を立ち上げました。

今年、Sophie さん一家は7月28日から8月31日までタイに滞在され、この間、「生き直しの学校」カンチャナブリ校のベーカリールームでパン焼きのワークショップを行うほか、「おはなしキャラバン」の活動に参加されます。



さらに、3人のお子さんとともにタイの子どもたちと一緒に活動している様子をビデオに収録し、ベルギー国内での広報に役立てていく予定です。

なお、Sophie さんは今年2度目の訪タイとなります。

オーストラリア人女性 財団職員に英語指導



今6月からオーストラリア人 Katherine Fox さんが毎週水曜日と木曜日、プラティープ財団職員に英語を指導しています。彼女の目標は、職務上必要な会話やライティングなどをマスターさせることです。

英語指導のほかにも、国際部のボランティアとして業務の手伝いをしています。「2年間はタイに滞在したい」とも話しています。

「Wings of Support Foundation」 幹部 スラム住民と交流



7月7日、「Wings of Support Foundation」の Ron 代表と理事の方々が当財団を訪問されました。同団体は、スラム地域の子どもたちが豊かな感性を育むことができよう、6年前から遊具製作、おはなしキャラバン、アートクラブなどの活動を支援していただいております。

今回は、ミンポン副理事長、財団職員、幼稚園の子どもたちがご一行を歓迎。第1-2-3地区幼稚園でおはなしキャラバンチームによる人形劇を見学した後、「温かな家庭」事業で高い評価を受けた家庭を訪問し、地域の問題について質問されるなど、住民たちと交流されました。

皆様にはお忙しい中、ご訪問いただき、本当にありがとうございました。



2004年12月26日に南タイ6県を襲ったインド洋大津波は、各地で多くの犠牲者を出しました。被災直後から、緊急救助のために現地入りした当財団では、津波孤児センター『バーナムチャイ』を開設し、両親や親族を引き取りました。孤児らは、家庭的な雰囲気の中で仲良く暮らし、センターの規律を守りながら、小学校、中学校、高校で勉学に励んでいます。

そしてこの度、いろいろな活動に熱心に取り組んでいる子たちに、海外体験をするチャンスがやって来ました。

7月25日、パンガー県タクアパ郡バーンモアン中学校3年生のナムティップ・ニラーウォンさん(17)が、ウィスコンシン州 Viroqua 市の「Youth Initiative High School」に1年間留学するため、旅立ちました。

母親を癌で亡くした後、彼女は祖父母、父親、兄姉とともに漁村「バーナムケム」で暮らしていましたが、大津波が一瞬にして家族6人の命を奪ってしまいました。家族を亡くした悲しみとショックから立ち直るまでに時間がかかったものの、同じような境遇に置かれた子どもたちとの生活を通じて、朗らかな性格を取り戻し、熱心に勉強するようになりました。

得意科目が数学という彼女ですが、タイ伝統舞踊もなかなかのもの。普段は、学校から帰ると、年下の子たちの宿題を見てあげたり、センター建物の掃除を手伝ったりしています。

なお、彼女が留学の関しては、アメリカの支援団体『Flame of Hope Foundation』(代表=Karen Dahl 女史)に全面協力していただきました。





栄養失調の児童が増加 「栄養価の高い卵」を提供

タイでは現在、諸物価が高騰しており、スラム住民の生活は日に日に厳しくなっています。特に日雇い労働で生計を立てている家庭ではより節約しなければならず、当然それは食生活にも及んでいます。

プラティープ財団の運営下にある10ヶ所の幼稚園で子どもたちの健康状態を調査した結果、1～6歳までの子どもの30%が栄養失調であることが分かりました。

このため、当財団では10ヶ所の幼稚園児に対して、安価で、しかもたんぱく質を多く含んでいる「卵」を提供することを決定。6月15日、1000個の卵をそれぞれの幼稚園に贈呈しました。

また、我が子のために卵を買うことが困難な家庭については、廃品回収で集めたりサイクルできるモノと「卵」との交換も行っています。

プラティープ幼稚園 カオパンサー行事を開催

タイの仏教徒にとってカオパンサー（入安居）は非常に大切な宗教行事です。このため、当財団が運営するプラティープ幼稚園では、7月22日、園児や保護者ら300人が参加した式典を執り行いました。

住民が提供した浄財を寺院に寄進（タンブン）したほか、サパーン寺から来ていただいた僧侶に、『カオパンサー行事の必要性』について園児たちにわかりやすく説明してもらいました。その後、お招きした9人の僧侶に乾物類を寄進しました。

この日、園児たちは興奮しながらも熱心に僧侶のお話に聞き入っていました。



2人の財団職員 オーストラリアへ語学研修



当財団では、職員に大学、専門学校などへの海外留学や海外研修参加などチャンスを与えています。5月25日、財団広報部職員のノパマニーさんと、津波復興プロジェクト職員のニワンさんの2人がVictoria Universityで3ヶ月間の英語研修を受けるため、タイを出発しました。

2人の研修受け入れ先は、オーストラリアの支援団体『Hands Across the Water』で、同団体には「津波孤児センター」や「生き直しの学校」カンチャナブリ校の活動も支援していただいております。



教育里親事業部 「理想的な地域を目指そう」運動

スラムで暮らす子どもや青年は成長するに従い、様々な家庭内の問題を背負っていかねばならなくなります。そのため、ゲームに夢中になったり、非行グループの仲間に入り授業から抜け出して違法薬物を常用したりするケースも見受けられます。そこで、当財団の教育里親事業部では7月17日、第3回「理想的な地域を目指そう」運動を行いました。

当日は、第1-2-3地区、第4-5-6地区、70ライ地区、ホアコン地区、ロムガオ地区、ノンマイ地区などの地域住民リーダーと奨学生（7～12歳）の総勢100人が参加。10のグループに分かれて話し合いました。奨学生らはまず住民リーダーから地域の実状を説明され、その上で様々な討議が行われました。奨学生からは、「地域内の至るところで捨てられる生ごみにより下水道が詰まっている状態をどう解決したらよいのか」といった質問も出ました。

また、地域の環境保護のため、所定の場所にゴミを捨てるよう互いに注意し合うほか、地域内で植樹推進を働きかけ、皆それぞれが余暇を有効利用するよう心がけていくことなどが提案されました。

今回の活動では、自分たちが暮らす地域をより住みやすくする運動に積極的に取り組んでいく必要性を確認しました。

ドゥアン・プラティープ財団
The Duang Prateep Foundation
Lock6, Art-Narong Road, Klong Toey
Bangkok 10110 Thailand
Tel : 001-66-(0)-2249-3553,(0)-2249-4880
Fax : 001-66-(0)-2249-5254
E-mail : dpffound@ksc.th.com
ホームページ: <http://jp.dpf.or.th>
銀行口座 : 三井住友銀行バンコク支店
口座名 : The Duang Prateep Foundation
口座番号 : 2 0 4 1 1 5 9 4 2 1

* 送金の際はご住所、お名前、ご送金の目的等を当財団国際部までご連絡賜りますようお願い申し上げます。

To:

奨学生の紹介 バディソン・ソーンポンさん

バディソン・ソーンポン (ニックネーム=ボーイ) さん (19歳) は、サヤームトゥラキット校 (専門短期大学) ホテル科の1年生として学んでいます。

彼は、父親が1歳の時に失踪してしまい、家計が苦しいため、小学5年生から財団の教育奨学金の支援を受けています。現在、彼は授業が終わると、毎日夕方5時から夜11時まで KFC (ケンタッキーフライドチキン) でアルバイトをしています。1時間29パーツの賃金は、半身不随になってしまった母親の世話に充てています。卒業後、彼は大好きなお菓子づくりができるホテルのベーカリー部門で働くことを希望しています。今は学業と仕事で毎日とても疲れるけれども、母親を見守ってあげられることを幸せに思っていると話しています。



2010年5月から7月までの訪問者の方々



拓殖大学甲斐教授と学生の皆さん



取材中のフォトジャーナリスト阿佐部さん



如水館バンコクインターナショナルスクール平田先生と生徒の皆さん



拓殖大学赤石教授と学生の皆さん

さらに、下記の皆様にもご訪問いただきました。

1. 天理教美谷教会の井上直寛先生
2. アメリカ Utah 大学の皆さん
3. 長福寺御住職の硯山昌寛先生
4. Hands Across the Water の Peter 代表
5. Victoria 大学の皆さん
6. Eeln Expo Asia Bangkok
7. Thomas B. Wells Charitable Fund
8. 読売新聞西部本社の掃本さん
9. シンガポールの Daphne Li さん
10. Wings of Support Foundation Ron 代表
11. Lands of Smile の Steve 代表
12. 共同通信社バンコク特派員の植田さん
13. Jen Baines さんにご友人の皆さん
14. Globalization Outreach Rocco 代表